

「医師として人の役に立ちたい」

クラス最下位の成績から医学部合格へ！

「人間形成と大学進学」を教育目標とし、広い視野、判断力、問題解決力などを兼ね備えた人間育成に取り組み城北中学校・高等学校。例年、医学部医学科への進学者も多く、今春も国公立大・私大合わせて55名が合格を果たした。今回は順天堂大学医学部医学科で学びながらマジシャンとしても活躍する山里レオさんが母校を訪ね、かつて担任でもあった校長の小俣力先生と語り合った。



山里レオさん(左)と小俣力校長

のように勉強しましたか。

山里 それからは、各教科の先生方のアドバイスを受けながら、とにかく基礎をやり直しました。どんな教科でも、基礎から応用へとピラミッド型に知識を積み上げないと実力がつきません。なかでも大切なのは、ピラミッドの土台に当たる「基礎知識」だと気づき、ひたすら反復学習に取り組みました。こここつとつらい学習でしたが、そのおかげもあり、高3で急に偏差値が上がりました。

自由と規律のバランスが良く やりたいことができた6年間

小俣 本校を志望した理由を教えてください。

山里 初めて学校を訪れたときに、「空気が心地良い。自分に合っている」と感じたことを今でもよく覚えています。実は2月1日の第1回入試で不合格になってしまったのですが、2日の第2回で合格。本当によかったと思っています。

実際に入学してみると、「束縛せず、かついつて放置はしない」「自由と規律のバランスが良い学校」だと思いました。やる気のある生徒にはとてもいいに指導してくれて、勉強以外のやりたいことにも応援してくれる。自分の好きなことに全力で取り組めるのが城北の魅力です。

私は今、医学生として大学生活を送るかたわら、プロのマジシャンとしても活動しています。高校で奇術同好会(マジッククラブ)を立ち上げたことが活動の原点となっています。中学でマジックに魅了され、高1で先輩や同級生と共に活動実績



自分の将来を考える会(講演会/中3・高1対象)

を積み上げ、先生に頼み込んで顧問を引き受けてもらいました。強引にお願いしたにもかかわらず、熱心に面倒を見ていただきました。卒業後も同好会が継続していることをとてもうれしく思っています。

小俣 どうして医師をめざそうと思ったのですか。

山里 最初に医学部を意識したのは高

1のとき。「人の役に立つ仕事がしたい」と思ったのがきっかけです。そうはいっても医学部は難関です。私は勉強が苦手、中1時の成績はクラスで最下位でした。その後、成績は徐々に上がりましたが、高1で平均をようやく超える程度。恥ずかしくて「医学部志望」となかなか周囲に言えませんでした。

そんなとき、キャリア教育の一環として、卒業生や保護者の方からさまざまな仕事の話を聞くイベントが校内で開催されたのです。このときに、現役のドクターから聞いた話に感銘を受け、勇気を出して控え室まで会いに行つたところ、ものすごく励ましてもらい、「何がなんでも医学部に行くんだ」という決意が固まりました。

小俣 中3〜高1で将来を意識し、大学受験へのモチベーションを高めることを狙って企画しているイベントなので、そう言ってもらえるとうれしいですね。

基礎の反復学習で

医学部受験へラストスパート

小俣 「医学部に入る」と決めた後は、ど

山里 「やりたいことを応援してくれる場所」です。もし他校に進んでいたら、こんなことを自由にできなかったのではないかと思います。

小俣 卒業生に同じ質問をしても「自由」「めりはり」「チャンスをつかめる」といったキーワードがたくさん出てきます。やはりそれが本校の校風ですね。これからの目標を聞かせてください。

山里 卒業後は医師として、できれば臨床と研究の両方をやりたいと思っています。そして、まだ治療法が確立されていないような難病を治せる医師になりたい。とても大きな夢ですが、ぜひ叶えたいと思っています。その一方でマジックにも力を入れています。その一方でマジックのアジア大会に出場したものの、残念ながら入賞を逃したので、次こそは世界大会へ出場したいと思っています。